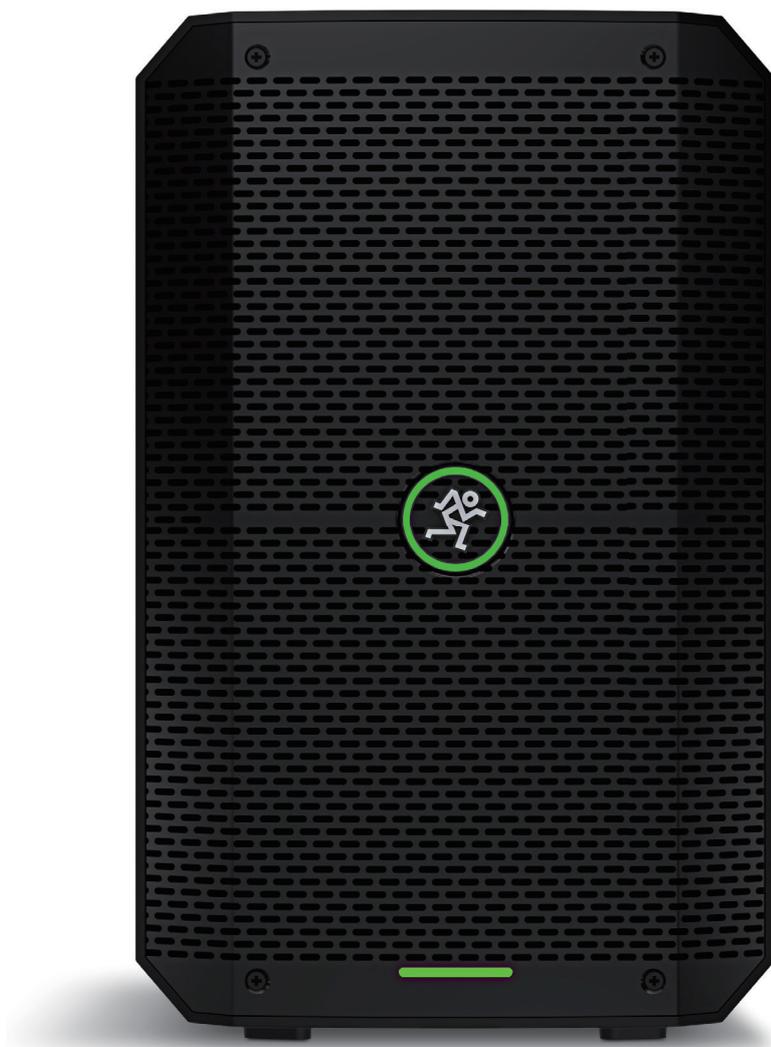


THUMP GO

8" Portable Battery-Powered Loudspeaker

オーナーズ・マニュアル

Ver. 1.0



安全上の注意

- ・この製品を使用する前に本書をよくお読みください
- ・本書は必要なときに見返せるよう、大切に保管してください
- ・警告表示には必ず従って、正しくご使用ください
- ・水のかかる場所や湿気の多い場所では使用しないでください
- ・本機を液体のかかる場所に置かないでください。また操作や電源コードの取り扱いは濡れた手で行わないでください
- ・お手入れは乾いた布で行ってください
- ・製品の通気口をふさがないでください
- ・電源を接続する前に、本製品の電圧仕様が使用する地域の電源電圧と一致しているのをご確認ください。適切に設置されたコンセントを使用してください。
- ・雷が接近している場合や、長期間本製品を使用しない場合には、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください
- ・意図しないトラブルが起こったときのために、電源プラグや電源スイッチを容易に操作できる状態にしておいてください
- ・本製品および電源コード、接続ケーブルを暖房器具やストーブなど、熱を発生する機器の近くには設置しないでください。また裸火を近づけないでください
- ・本製品の近くで可燃性ガスを使用したスプレーなどを噴射しないでください。引火のおそれがあります
- ・本製品を移動するときは、電源ケーブル、接続ケーブル等をすべて抜いてから行ってください
- ・電源コードが踏まれたり、挟まれたりしないようにしてください
- ・メーカーが指定した付属品・アクセサリーのみを使用してください
- ・安定した場所に設置し、スピーカースタンドを使用する場合は耐荷重や取り付け方法を確認してください
- ・修理や点検は、必ず専門の技術者にご依頼ください。以下のような場合には、製品の修理が必要です
 - ・液体をこぼした、異物が製品内部に入り込んだ
 - ・落下や踏みつけなどで、本体または電線コードやプラグ等が損傷した
 - ・雨や強い湿気にさらされた
 - ・正常に動作しない
- ・テレビやラジオ、携帯電話の近くで使用するとノイズが発生する場合があります
- ・大音量により聴覚障害を引き起こす可能性があります。また、音量にかかわらず長時間の聴取により継続的に耳に負担をかけ、聴力に悪影響を及ぼす可能性があります



注意

感電の危険があるため、カバーを取り外さないでください。修理は必ず専門の技術者にご依頼ください。

※本製品を廃棄する際は、地域で定められたルールに従って処分してください

はじめに

Thump GOはいつでもどこでも持ち運びが可能な Bluetooth® 機能搭載、バッテリー駆動のパワードスピーカーです。

Bluetooth®ワイヤレスストリーミングとThump Connect2 アプリによるワイヤレスコントロールが可能な Thump GOは場所を問わず明瞭度の高いハイパワーなプロフェッショナルサウンドを提供する真の次世代ポータブルワイヤレススピーカーです。

Thump GO の特徴

- ・ 200W 超高効率 D級パワーアンプ
- ・ カスタム設計高出力8"ウーファー
- ・ 1"コンプレッションドライバー
- ・ 脱着可能なリチウムイオンバッテリー
- ・ バッテリー残量が瞬時にわかる3色インジケーター
- ・ 最大 12時間バッテリー駆動可能
- ・ Bluetooth® ワイヤレスストリーミング
- ・ Bluetooth®ワイヤレスコントロール可能な Thump Connect2アプリ
- ・ 2本のThump GOをワイヤレスリンクし、1台のスマートホンからワイヤレスストリーミングとコントロールが可能
- ・ XLR ミックスアウト端子を装備した2チャンネルデジタルミキサー搭載
- ・ 瞬時に不快なハウリングを回避できるフィードバックエリミネーター
- ・ 用途に合わせて選択できる 4種類のスピーカーモードプリセット
- ・ Ch.1を優先し、Ch.2のレベルを自動で下げる Music Ducking モード
- ・ 屋内、屋外設置時に切り替えできる Indoor / Outdoor voicing モード
- ・ 高精度デジタルクロスオーバーとドライバーアライメントで最適なサウンドを再生
- ・ スピーカー保護のためのスマートインプットと温度監視リミッター
- ・ 軽量で耐久性に優れた成形エンクロージャー
- ・ モニター設置時に最適な角度(45°)
- ・ 直径35mmポールマウントカップ搭載
- ・ パウダーコートスチールグリル
- ・ 質量:8kg
- ・ サイズ(H×W×D):457×230×285mm

クイックスタート

以下の手順でスピーカーを素早く設定できます。

1. ケーブルを接続する際は全ての機器の電源スイッチをオフにしてください。マスターボリューム、レベル、またはゲインコントロールが最小になっていることを確認してください。
2. サブウーファーを使用しない場合、ミキサー（もしくはその他の音源）の出力端子とスピーカーのリアパネルにある入力端子を接続してください。
3. サブウーファーを使用する際は、ミキサー（もしくはその他の音源）の出力端子とサブウーファーの入力端子を接続し、その後サブウーファーのハイパス出力端子とスピーカーの入力端子を接続してください。
4. 電源ケーブルをスピーカー／サブウーファーの電源コネクタに差し込み、もう一方の端をアース付き電源コンセントに接続して

ください。必ず電源ソケットの下部に表示された仕様の電源に接続してください。

5. ミキサー（もしくはその他の音源）の電源を入れます。
6. サブウーファーの電源を入れます。（サブウーファーを組み合わせで使用する場合）
7. パワードスピーカーの電源を入れます。
8. スピーカーのチャンネル GAIN ノブを接続音源に合わせてマイクもしくはラインの位置に設定します。
9. 接続機器のボリュームが通常使用時と同程度に設定されているか確認します。
10. 音源を再生し、音が聞こえ始めるくらいまでミキサーのメインフェーダーを上げます。

その他の注意

- ・ 長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因となる恐れがあります。
- ・ 一般的にミキサー（または他の音源）の電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。電源を切るときはそれとは逆にスピーカーの電源を最初に落とし、次にサブウーファー、最後にミキサーの電源を落とします。これにより突発的なノイズがスピーカーから流れることを防ぎます。
- ・ 梱包箱と同梱物は大切に保管してください。
- ・ 保証書は大切に保管してください

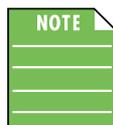
このマニュアルの使い方



このアイコンは特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。手のひらアイコンにて示される領域には特に注意を払うことをお勧めします。

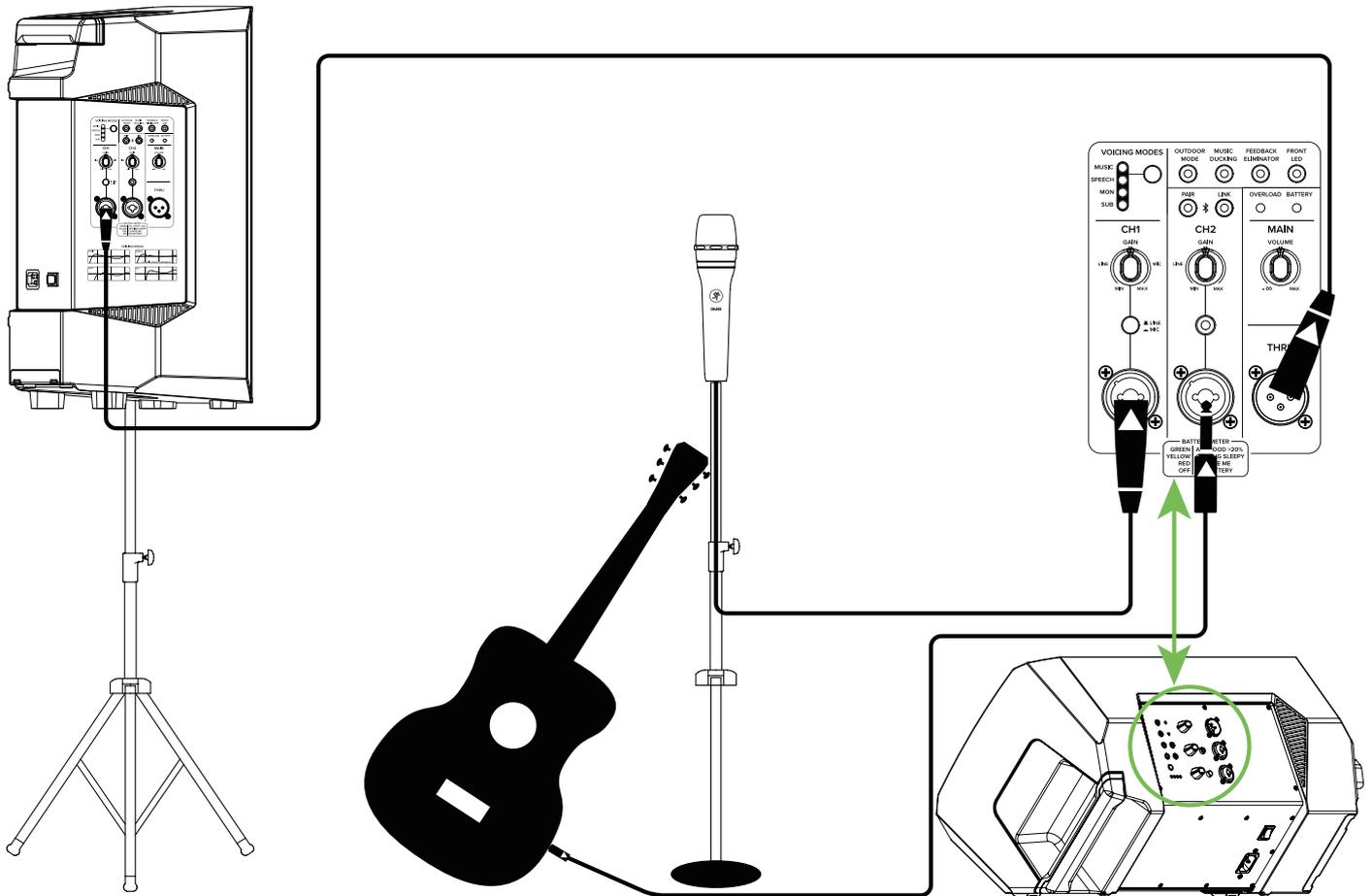


より詳細な情報の場合、顕微鏡のアイコンを使っています。また実用的なヒントの説明も含んでいます。



このアイコンは、使用に関連する特定の機能などを説明しています。

Singer-Songwriter Setup



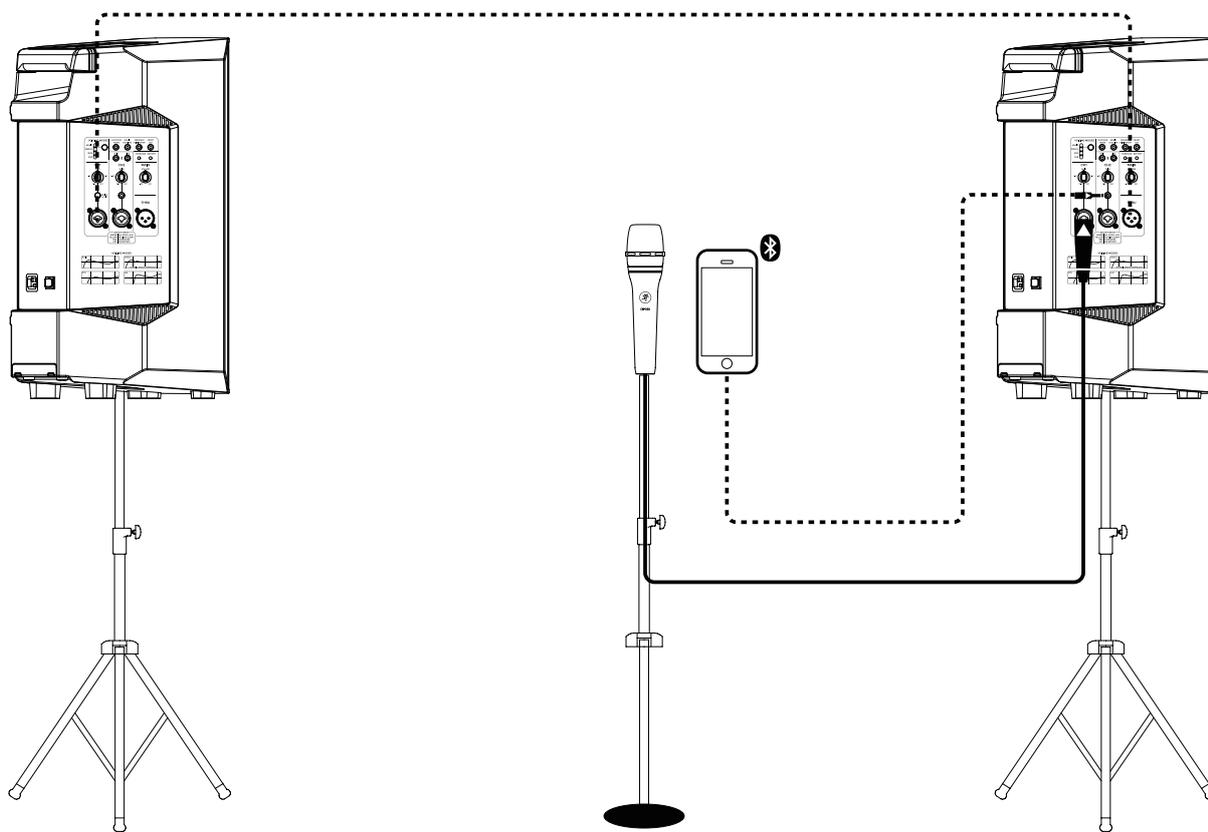
Thump GOは、シンガーソングライターが地元でカフェ・ライブを行うのに最適なパワードラウドスピーカーです。お気に入りのエレアコとボーカルマイク、そして Thrashと電源ケーブル、接続ケーブルが必要です。

この例では、ダイナミックマイク Mackie EM-89Dをモニターとして使用される Thump GOのCh.1の入力端子に接続しています。このときCh.1のGAINノブは「MIC」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチをオン(MIC)にします。

エレアコをCh.2の入力端子へ直接接続します。エフェクターを使用する場合は、ギターをエフェクターの入力端子へ接続し、エフェクターの出力端子からスピーカーの Ch.2の入力端子へ接続します。このときCh.2のGAINノブは「LINE」の位置へ設定してください。

もう1台のThump GOラウドスピーカーは、メインPAとして使用します。モニター用Thump GOのTHRUジャックからメインPA用のThump GOのチャンネル1インプットにケーブルを接続するだけです。このときCh.1のゲインノブは「LINE」に設定し、MIC/LINE スイッチはオフ(LINE)にします。

「VOICING MODES」というスピーカーモードプリセットを搭載しており、用途にあわせて切り替えできます。このページで紹介しているセットアップでは、メイン PA用の Thump GOには Music モード、モニター用の Thump GOには Monitorモードの使用をお勧めします。



Thump GOは、ハウスパーティー、バーベキュー、カラオケ大会、ピクニックにも活躍します。

この例では、Mackie EM-89D ダイナミックマイクを Thump GOのチャンネル1の入力端子に接続しています。ゲインノブは「MIC」に設定し、MIC/LINEスイッチはオン(MIC)にします。さらに、音楽再生用にスマートフォンをチャンネル2の3.5mmステレオミニフォン入力端子に接続しています。こちらのゲインノブは「LINE」に設定します。スマートフォンのボリュームは適時上げます。

もう1台Thump GOを使用すると、さらにパンチが効いたサウンドになります。1台目のThump GOのTHRU ジャックから、もう1台のThump GOのチャンネル1入力にケーブルを接続するだけです。この入力のゲインノブは「LINE」に設定し、MIC/LINE スwitchはオフ(LINE)にします。

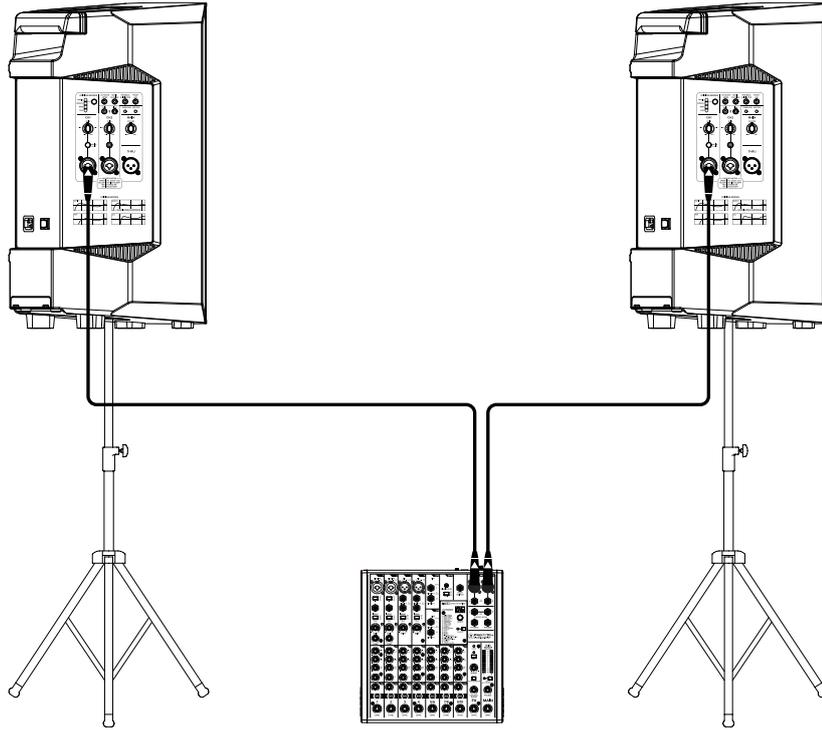
「VOICING MODES」というスピーカーモードプリセットを搭載しており、用途にあわせて切り替えることができます。このページで紹介しているセットアップでは、2台とも Music モードを使用することを推奨します。

Thump GOは Bluetoothでワイヤレスコントロールすることができます。ワイヤレスコントロールを行うにはスマートフォン用アプリ Thump Connect 2App が必要です。

この例では、1台目の Thump GOのTHRU端子から2台目のThump GOのCh.1入力端子に接続されていますが、この2台のスピーカーを Bluetoothでワイヤレスリンクも可能です。こちらスマートフォン用アプリの Thump Connect 2 Appから設定できます。スピーカーのバッテリーが充電されていれば、電源ケーブルすらも必要なく、完全ワイヤレスなPAシステムが完成します。

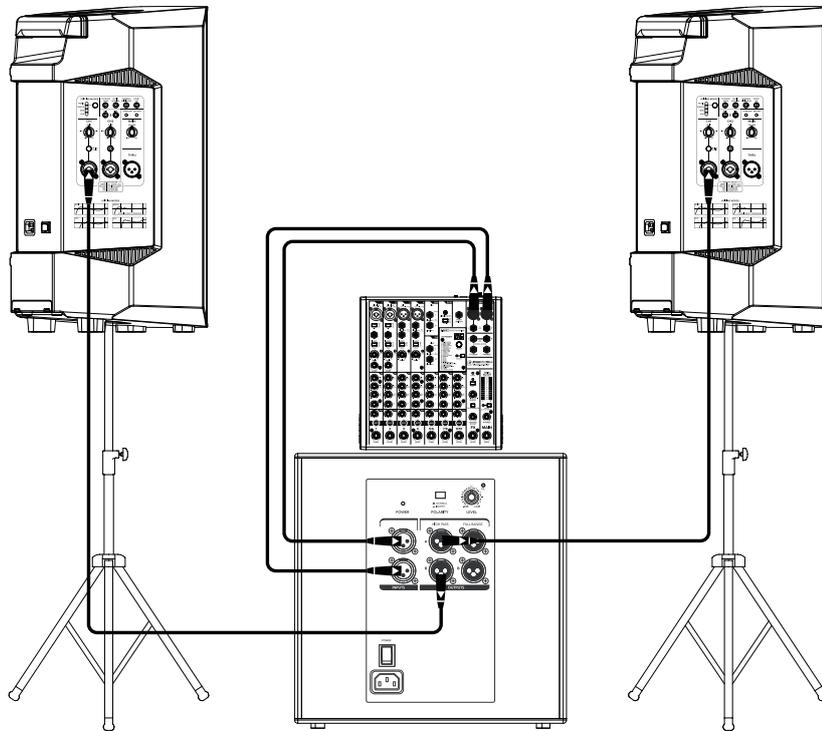
さらに3つの機能をご紹介します。OUTDOOR MODE ボタンを押せば、屋外での使用に最適なサウンドを再生できます。レベルは Thump Connect 2 Appで簡単に上げ下げできます。MUSIC DUCKING ボタンはCh.1に接続したマイクを優先し、Ch.2に接続した音源の音量を自動的に下げることができるボタンです。イベントで音楽を再生しているときに、MCの緊急放送ができます。また FEEDBACK ELIMINATOR ボタンで、急激なハウリングを自動的に回避できます。こちらは常にオンにしておくのを推奨します。

Small Club System



この例では、ProFX10V3が2つの Thump GOと接続されています。小さなクラブに最適なセットアップです。ここでは、Mackie ProFX-10V3のL/R 出力が直接両サイドのThump GOのCh.1入力端子に接

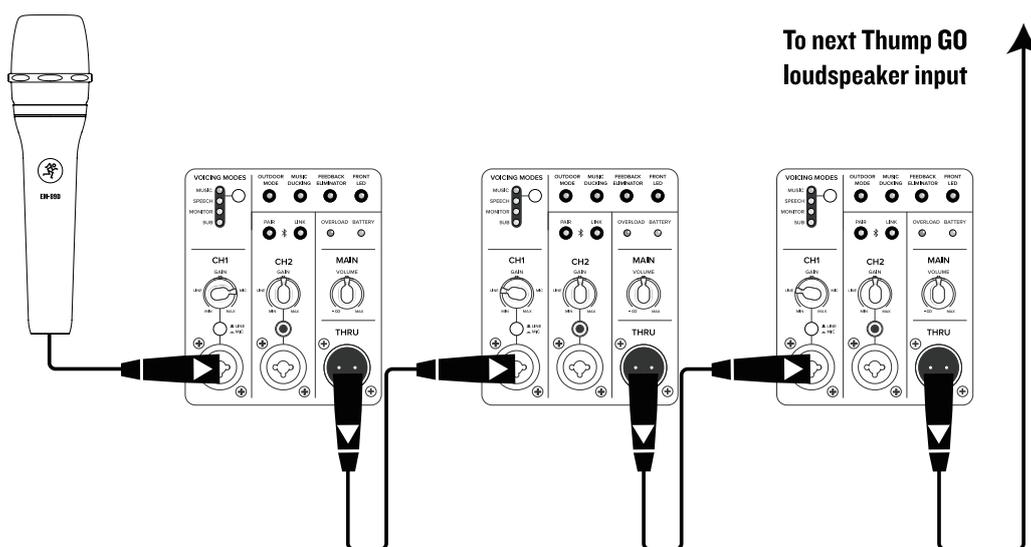
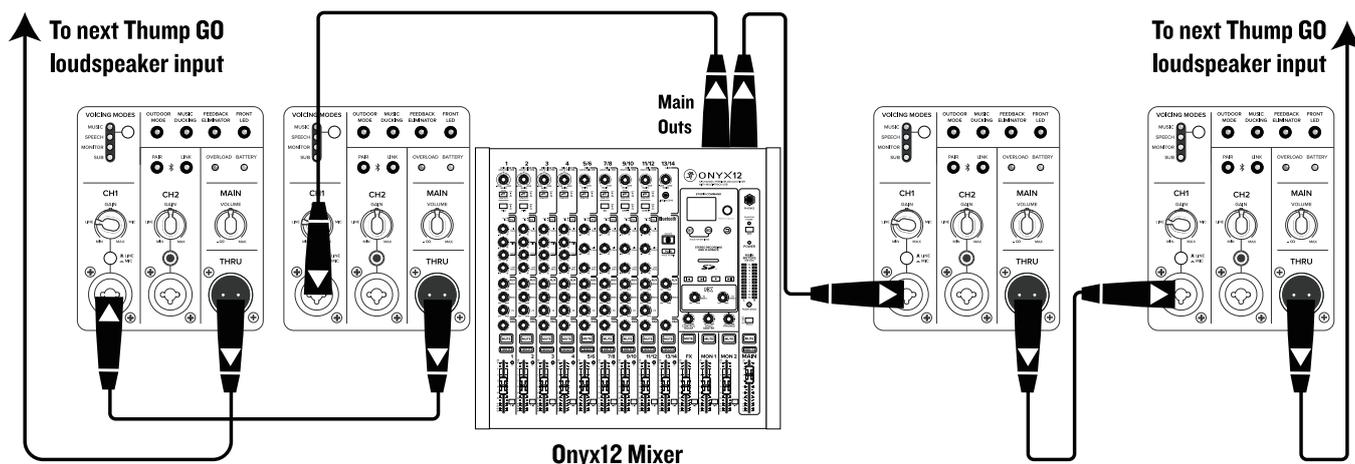
続されています。両方のスピーカーのCh.1のゲインを「LINE」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオフ(LINE)にします。こちらのセットアップではMusic モードが最適です。



低音を補強したい場合、サブウーファー Thump 18Sをセットアップに追加します。ここでは、ProFX10V3の L/R 出力が直接Thump 18Sの Ch.A、Ch.Bの入力端子に接続されています。そしてサブウーファアのハイパス出力端子から、両方の Thump GOのCh.1入力端子

に接続しています。スピーカー両方のCh.1のゲインを「LINE」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオフ(LINE)にします。この場合もボーイングモードは Music が良いでしょう。

Daisy Chaining Multiple Thump GO Loudspeakers



Thump GO は THRUを介してデジチェーン接続を行うことができます。音源（ミキサーの出力もしくはマイク）を入力端子に接続し、Thump GOのTHRU端子を次の Thump GOの入力端子に接続します。これを繰り返し、複数台のスピーカーをデジチェーン接続します。上の接続図を参照ください。

注意：スピーカーのゲインノブの位置が正しいか確認してください。ラインレベルの音源を利用してデジチェーン接続を行う場合（上部の接続図を参照）、すべての入力チャンネルのゲインノブは「LINE」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオフ（LINE）にします。マイクレベルの音源を使用してデジチェーン接続を行う場合（下側の接続図を参照）は、マイクを接続した1本目のThump GOのゲインノブは「MIC」の位置に設定し、MIC/LINE スイッチはオン（MIC）、2本目以降のThump GOのゲインノブは「LINE」の位置に設定し、MIC/LINEスイッチはオフ（LINE）にします。ゲインノブの「MIC」と「LINE」マークはあくまで参考値であり、必要に応じて適宜調整してください。

リアパネルの機能

Thump Connect 2 アプリ

Thump GO は、Thump Connect 2 アプリと連動して使用するように設計されています。このアプリがあれば、これからご紹介するスピーカー本体の様々な機能、またはそれ以上のことを、スマートフォンからBluetooth 経由で操作することができます。

Thump Connect 2 アプリの詳細については、Thump Connect 2 アプリのリファレンスガイドをご参照ください。Thump Connect 2 アプリマニュアル(英語)はMackie ホームページよりダウンロードしてください。

1. 電源コネクタ

これはIEC に準拠した標準的な3 ピンタイプの電源コネクタです。取り外し可能なラインコード(製品に同梱)を電源部分のレセプタクルに接続し、もう一方の端を電源コンセントに接続します。



必ず電源ソケットの下部に表示された仕様の電源に接続してください。



グラウンドピンを接続しないのは大変危険です。

2. 電源スイッチ

このスイッチの上部を押し込むとスピーカーの電源がオンになります。下部を押し込むとスピーカーの電源がオフになります。



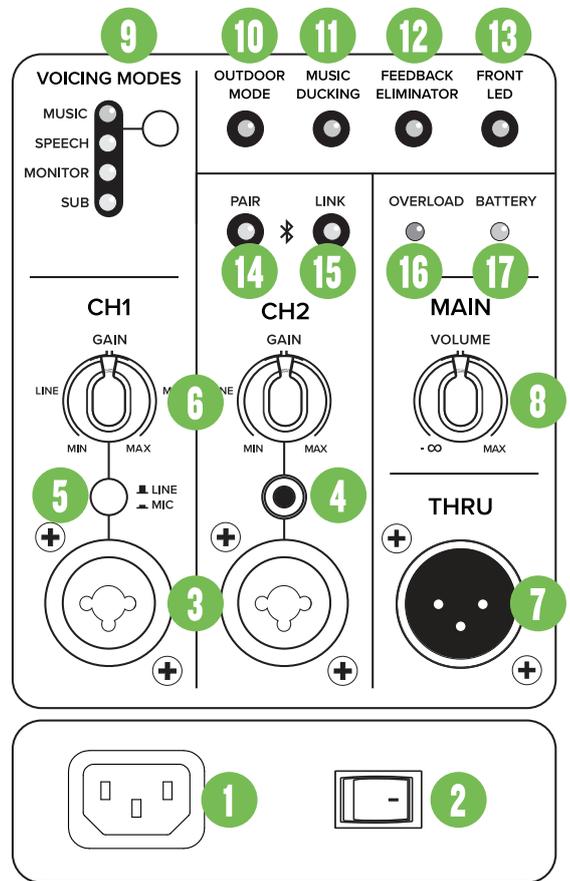
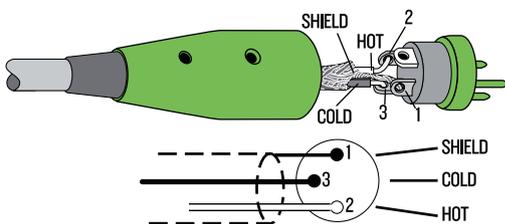
一般的にミキサー(または他の音源)の電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。電源を切るときはそれとは逆にスピーカーの電源を最初に落とし、次にサブウーファー、最後にミキサーの電源を落とします。これにより突発的なノイズがスピーカーから流れることを防ぎます。

3. XLR & TRS フォンコンボ入力端子 [Ch.1 & Ch.2]

Ch.1 とCh.2 の入力はバランスXLR 端子を使用することができます。マイクを使用する場合は必ずXLR3 ピンケーブルでCh.1 に接続してください。両チャンネルともラインレベル入力に対応していますが、マイクはCh.1 のみ対応しています。AES(Audio Engineering Society)の規格に基づき、以下のように配線されています。

XLR バランス配線

- Pin 1 = シールド (グラウンド)
- Pin 2 = プラス (+ もしくはホット)
- Pin 3 = マイナス (- もしくはコールド)

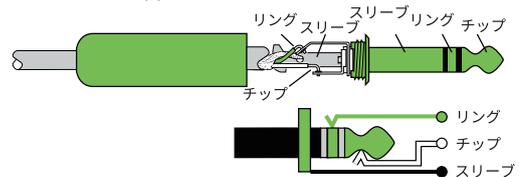


③はXLR 端子に加え、1/4 インチTRS フォンのバランスもしくはアンバランス信号にも対応するコンボ端子です。

ラインレベルのバランス信号をこれらのチャンネルに入力する場合は、TRS フォンをご利用ください。ケーブルは下図のように配線してください。

1/4 インチ TRS バランスモノラル配線

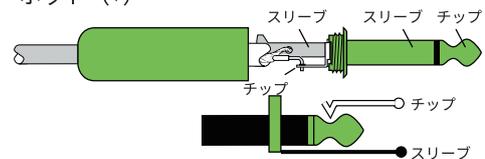
- スリーブ = シールドまたはグラウンド
- チップ = ホット (+)
- リング = コールド (-)



アンバランスのライン信号を入力端子に接続する場合は、1/4 インチモノラルフォン(TS)を使用します。配線は以下の通りです。

1/4 インチ TS アンバランスモノラル配線

- スリーブ = シールド
- チップ = ホット (+)



決してアンプからの出力を本機の入力端子に接続しないでください。入力回路の破損の原因となります場合があります。

リアパネルの機能

4. 3.5mm ステレオミニフォン入力端子 (Ch.2)

スマートフォンやタブレット、MP3 プレーヤーなどから音源を入力できる3.5mm ステレオミニフォン入力端子です。



決してパワーアンプからの出力をThump GO の入力端子に接続しないでください。入力回路の破損の原因となる場合があります。



この3.5 mm ステレオミニフォン入力端子は、Ch.2のコンボ端子(XLR またはフォン)およびBluetooth接続と同時に使用することができます。つまり、3.5mm ステレオミニフォン入力端子に有線接続され、コンボ端子にもケーブルを接続している状態で、さらにBluetooth で接続をすることもできます。3.5mmステレオミニフォンのラインレベル接続とXLR(またはフォン)接続はミックスされ出力されます。

5. MIC/LINE スイッチ (Ch.1)

Thump GO のCh.1 入力は、XLR & バランスフォンコンボ入力端子です。マイクまたはその他オーディオ機器(楽器も含む)を接続できますが、接続する音源によって入力感度の調整が必要です。スイッチでCh.1 の入力を音源に最適化します。マイクを接続する場合は、このスイッチを押し、GAIN ノブをMICの位置に設定してください。ラインレベルの音源をCh.1に接続する場合(XLR 経由)は、このスイッチをオフにし、GAINノブをLINEの位置に設定してください。GAINノブについては次の項目をご参照ください。

6. GAIN ノブ (Ch.1 & Ch.2)

Thump GO のCh.1 入力は、XLR & バランスフォンコンボ入力端子です。マイクまたはその他オーディオ機器(楽器も含む)を接続できますが、接続する音源によって入力感度の調整が必要です。スイッチでCh.1 の入力を音源に最適化します。マイクを接続する場合は、このスイッチを押し、GAIN ノブをMICの位置に設定してください。ラインレベルの音源をCh.1に接続する場合(XLR 経由)は、このスイッチをオフにし、GAINノブをLINEの位置に設定してください。GAINノブについては次の項目をご参照ください。

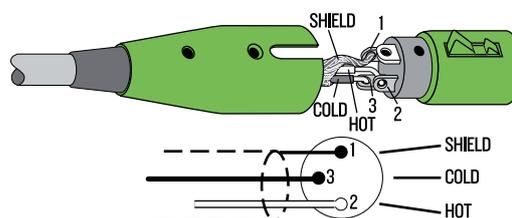
7. THRU 端子

XLR オスのバランス出力端子で、すべての入力端子に接続した音源をモノミックスした信号を出力します。メインボリュームに影響されません。1本目のThump GO に接続した音源を2本目のThump GO から出力したい場合や、サブウーファーを接続する場合に使用します。

AES(Audio Engineering Society)の規格に基づき、以下のように配線されています。

バランス XLR 出力端子

- Pin 1 = シールド (グラウンド)
- Pin 2 = プラス (+ もしくはホット)
- Pin 3 = マイナス (- もしくはコールド)



8. MAIN VOLUME ノブ

このノブで内蔵パワーアンプへ送られる全体的な入力信号レベルを調整します。ノブを下げるとオフ、上げると最大ゲイン(+6dB)になります。12時の位置がユニティゲインです。

- MAIN ノブがセンターの位置になっているとき、+4 dBu のライン信号で動作するように設計されています。
- ライン入力ゲインを下げることで、+20 dBu までのライン信号を受けることができます(Ch.1 のMIC/LINE スイッチがオフで、ゲインノブがLINE に設定されている場合)。OVERLOADLED が点灯した場合は、警告が消えるまで入力ゲインをゆっくりと下げてください。
- Ch.1のMIC/LINE スイッチがMIC に設定されている場合、Ch.1のGAINノブを上げると、XLR 端子に接続したマイクに十分なゲインが得られます。まずはメインノブをセンターポジションに設定します。それからCh.1のマイクゲインを上げてみてください。

9. VOICING MODES

Thump GO に搭載されたボイシングモードでは、「MUSIC」や「SPEECH」など状況にあわせた最適なサウンドチューニングを選択できます。VOICING MODES ボタンを押すごとにモードが切り替わります。希望のモードにLEDが点灯するように設定してください。

リアパネルの機能

- **MUSIC** - 低域を拡張し、高域をクリアにしたモードです。DJ や音楽再生に最適です。
- **SPEECH** - 声の帯域、スピーチをはっきりと再生。スピーチの明瞭度を上げるため、低域をカットし、スピーチの帯域である高音域をブースト、またハウリングがよく発生する周波数帯の一部をカットしています。さらに専用のコンプレッサーが作動し、スピーチから発生する耳障りな音を自動でコントロールします。
- **MONITOR** - ステージ上での音の回り込みを回避すべく特定帯域の出力を抑えます。



MONITORモードは、スピーカーがステージ上のサイドフィルやフロアモニターとして設置している場合に効果を発揮します。それ以外の用途でこのモードを使用すると低域が全くない、迫力の無いサウンドになります。

- **SUB** - このモードでは、サブウーファーに低域再生を任せ、チューニングを施します。「MUSIC」モードの代わりにこのモードを使用し、ミキサーからの出力をThump GO に接続、Thump GO のTHRU 端子からサブウーファーの入力端子に接続してください。Thump GO の負荷が軽減され、Thump GOは約+3 dBの追加出力を得られます。

10. OUTDOOR MODE ボタン

屋外での使用に最適なサウンドを再生します。

スピーカーを屋外に設置した場合、屋内に設置した時とは異なり、壁などからの音の反射が無く少し物足りない感覚になると思います。OUTDOOR MODE では、足りない周波数帯域をブーストすることで補正し、屋外でも屋内と同じようにスピーカーを鳴らします。

11. MUSIC DUCKING ボタン

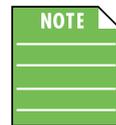
音楽が流れているイベントで誰かがマイクに向かって話すと、流れている音楽の音量だけがぐっと小さくなることを耳にしたことがあるでしょう。それを「ミュージック・ダッキング」と言います。

MUSIC DUCKING をオンにすると、Ch.1 にマイク信号が入った場合、Ch.2 のレベルが自動的に下がり、マイクからの音声信号がなくなると、音楽は元のレベルに戻ります。

12. FEEDBACK ELIMINATOR ボタン

マルチバンドのフィードバック・エリミネーター (FEEDBACK ELIMINATOR) は、ハウリングを発生させている周波数帯域を瞬時に検出し、最大6 ポイントのノッチフィルターを自動的に適用してハウリングを回避し、ハウリング前の音量まで復帰させます。

- **Off** [デフォルト] - フィードバック・エリミネーターは作動しません。
- **On** - フィードバックエリミネーターがオンになると、スキャンが自動的に行われます。ハウリングが存在すると、6ポイントのフィルターが順次作動し、ロックされます。再度ハウリングが感知されると、フィルターをさらに深くかけて、ハウリングを回避します。作動中はLED が緑色に点灯します。



フィードバックエリミネーターは、Ch.1 (マイクおよびラインモード) にのみ作用します。



2 台のThump GO ラウドスピーカーをステレオモードで接続した場合、フィードバックエリミネーターは前段のThump GO にのみ作動させてください。

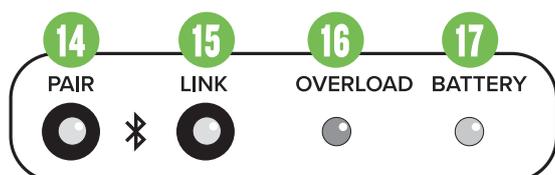
リアパネルの機能

13. FRONT LED

Thump GO のフロントパネル下部付近に横長のLEDバーがあります。フロントパネルのLED を点灯させたくない場合は、このスイッチをオフにしてください。



電源がオフで、電源ケーブルを接続したままの状態では、このLED はバッテリー充電のインジケータとして機能します。充電中は緑色にゆっくと点滅し、完全に充電されるとLED は緑色に点灯したままになります。



14. Bluetooth / PAIR ボタン

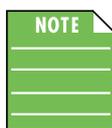
ステレオCh.3/4 はBluetooth を経由して入力されるチャンネルです。音量の調整はThump Connect 2 アプリをダウンロードしてあるデバイス上でのみ行うことができます。物理的なボリュームノブはありません。

初めてペアリングするデバイスの場合

PAIR ボタンを3 秒以上押し続けることで、本体がペアリングモードになります。ペアリングモードになると、LED が約30秒間青く点滅します。ペアリング接続に成功するまでLED の点滅は続きます。ペアリングモードになっている間に、お使いのデバイスの設定からBluetooth の項目を選択し、有効なデバイスをスキャンしてください。Thump GO が「その他のデバイス」「利用可能なデバイス」のリストに表示されるはずですが、表示されたらThump GO を選択してください。お使いのデバイスの画面で接続済のステータスになったらペアリング完了です。ペアリングが完了するとThump GO のPAIR ボタンLED が点滅から点灯に切り替わります。切り替わらない場合は、もう一度ペアリングをやり直してみてください。

以前にペアリングしたことがあるデバイスの場合

Thump GO とデバイスの距離が離れたり、壁などの障害物に遮られる。また、Thump GO 本体の電源が切れたりすると、Bluetoothペアリングは切断されます。以前ペアリングしたことがあるデバイスは、Thump GOを起動させると、自動的に認識されペアリングされます。ペアリング接続が成功するとThump GO のPAIR ボタンLED はふたたび青色に点灯します。



ペアリングを解除するには、本体のPAIR ボタンを3秒以上長押ししてください。



静電気による放電や、電子レンジなどの電磁波を発生する機器、AC 電源を差し込んだり、機器の電源を切ったりするときに生じる電気アークの影響で、Bluetooth 接続が切断される場合があります。このときは手動でBluetooth ペアリングを再度行ってください。



Bluetooth 接続は、XLR & バランスフォンコンボ入力端子 (Ch.1 & Ch.2) と 3.5 mm ステレオミニフォン入力端子 (Ch.2) と同時に使用できます。スピーカー本体の入力チャンネルがすべて埋まっている状態でも、Bluetooth 経由でステレオチャンネル3/4 を再生できます。



2台のThumpGOが、両方ともスマートフォンとBluetoothでペアリングされている場合、2台のThumpGO をスピーカーリンクすることはできません。

リアパネルの機能

15. LINK ボタン

2台のThumpGOがある場合、ケーブルで接続するのではなく、Bluetooth経由でリンクして使用することができます。Bluetoothでリンクした場合、L/Rのステレオスピーカーとして、またはデュアルモノの選択が可能です。ただし、このモードの切り替えはThumpConnect2アプリで接続した場合のみ利用できます。スピーカー本体だけでリンクしているときはL/Rステレオモードになります。

スピーカーLINKする

2台のThumpGOをリンクさせるには、スマートフォンとペアリング済みの1台目のThumpGOのLINKボタンを、LEDが青くゆっくり点滅し始めるまで長押しします。1台目のThumpGOのLINKボタンが点滅し始めてから約30秒以内に、スマートフォンとペアリングしていない2台目のThumpGOのLINKボタンを押してください（長押しする必要はありません）。これによりBluetooth経由でそれぞれのスピーカーがお互いを認識しリンクします。両方のスピーカーのLINKボタンが点滅から点灯に変わったら、リンクは成功です。



一度リンクした2台のThumpGOはThump Connect2 アプリでAUTO-LINK をオフにしない限り、電源投入のたびに自動的にリンクし続けます。

リンクを解除する

2台のThumpGOのリンクを解除するには、片方のThumpGOのLINKボタンをLEDが消えるまで押し続けます。もう一方のThumpGOは自動的にリンクが解除され、LINKボタンが消灯します。



2台のThumpGOが、両方ともスマートフォンとBluetoothでペアリングされている場合、2台のThumpGOをスピーカーリンクすることはできません。

16. OVERLOAD LED

ThumpGOにはリミッターが内蔵されています。アンプ出力がクリップしたり、トランスデューサーをオーバードライブさせないようにするためものです。リミッターが作動すると、インジケータLEDが赤く点灯します。このLEDがときどき点滅する程度であれば問題ありませんが、頻繁に点滅したり点灯し続けたりする場合は、ゲインノブを下げて点滅が少なくなるように調整してください。



リミッターが常にかかり続けると、過熱を招き、熱保護回路が作動してパフォーマンスが中断されることがあります。

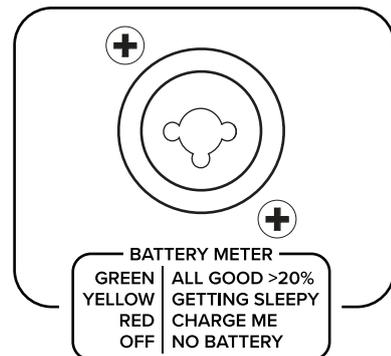
17. BATTERY LED

バッテリーの残量を3色のLEDで表示します。バッテリー残量とLEDカラーの内容は下記のとおりです。

- 緑色=バッテリー残量20~100%
- 黄=バッテリー残量5%~20%未満
- 赤=バッテリー残量5%未満
- LED消灯=バッテリー残量なし



バッテリー残量はThumpConnect2アプリで確認することもできますが、本体のバッテリーLEDによる確認がより確実です。



最後に

Thump GO は本体のみでも素晴らしいパフォーマンスを発揮しますが、より可能性を広げるためにはデバイスをペアリングし、ぜひ Thump Connect 2 アプリと組み合わせて使用してください。

工場出荷時の製品状態に戻す

スピーカーの設定をThump Connect 2 アプリで変更することができますが、工場出荷時の設定に戻したい場合は下記の方法で実施してください。

- **ソフトリセット** - 本体の電源スイッチを切つてすぐに入れなおすと、リアパネルやアプリで設定したすべての設定が初期設定に戻ります (Thump GO 内に保存されているBluetooth ペアリングデバイスの情報とリンクされたスピーカーの情報はリセットされません)。
- **ハードリセット** - Bluetooth ペアリングデバイスの情報とリンクされたスピーカーの情報を含め、製品全体を工場出荷時の状態にリセットします。「VOICING MODES」と「OUTDOOR MODE」ボタンを同時に押しながら電源を起動し、電源起動後もこの2つのボタンを約5秒間長押しすることで、すべての設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。



レベルやEQなどの設定も含めて、すべての設定が消去されますのでご注意ください。またThumpGOをリセットする前に、ThumpGOと接続しているアンプやパワードスピーカーの電源を必ず切ってください。



ハードリセットすると、以前にペアリングしたデバイスのThumpGOのメモリが消去されます。この問題を解決するには、お使いのスマートフォン、タブレット、その他のBluetoothデバイス上から、Bluetooth設定を開いて「デバイス削除」を選択しThumpGOを削除してください。その後、ハードリセット後のThumpGO再度ペアリングしてください。

バッテリー交換

脱着可能なリチウムイオンバッテリーが内蔵されています。またThump GO 専用予備バッテリーも別売しています。



本製品を設置、使用する前に、この項目をよくお読みください。注意事項に従わない場合、損傷、けが、死亡の原因になることがあります。

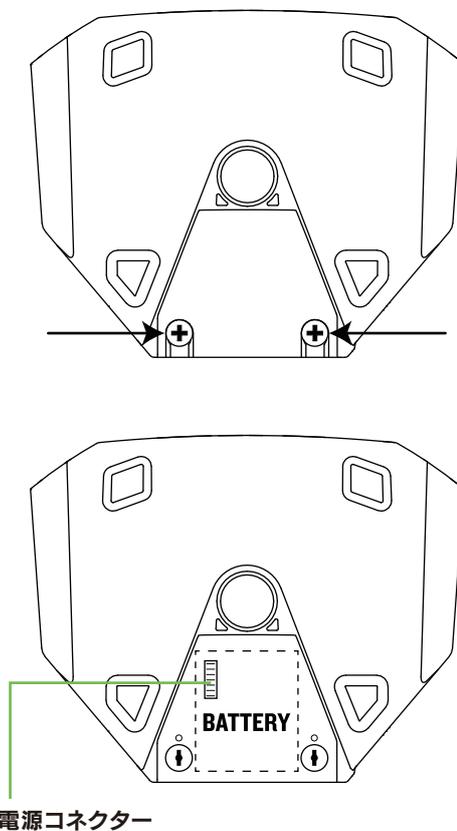
1. **警告**: 電池 (バッテリーまたはバッテリーパック) は、日光や火気などの過度な熱にさらさないでください。
2. **注意**: 純正品でない電池 (バッテリーまたはバッテリーパック) を使用すると、爆発する危険があります。必ず純正品の電池と交換してください。
3. 火のついた口ウソクや裸火をスピーカー本体の上に絶対置かないでください。

警告: 本製品を設置する際は、必ず安全規格を遵守してください。この説明書に記載されていない方法で製品を取り付けしないでください。

バッテリー/ カバー着脱方法

Thump GO の電源ケーブルを外し、本体を逆さまにして平らで柔らかい場所に置いてください。

ドライバーを使用して、2つのロックタブを反時計回りに回してバッテリーの蓋を外します。蓋が外れたら横に置いておきます。



バッテリーの両側、図の「BATTERY」の文字がある付近には、左右に手で取り出しやすいようすべり止めがついています。このすべり止めをつかんでバッテリーをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。

バッテリー取り付け方法

バッテリーカバーとバッテリーを取り外して脇に置いたら、今度は別のバッテリーを挿入します。



注意: バッテリーを取り付ける際は、無理に押し込んだりしないようご注意ください。なにか引っかかったりすることなくスムーズに入れれば取り付け成功です。

バッテリーを取り外した左上には縦長の電源コネクターが配置されています。バッテリーの電源端子をThump GO の電源端子に合わせ、押し込んでください。

カバーを元に戻し、2つのロックタブを時計回りに回してバッテリーを固定します。

NOTE

使用しないときはバッテリーを取り外し、汎用の電源アダプターでスペアバッテリー（別売）を充電することができます。バッテリーはThumpGOに装着した状態でも充電することもできます。

Thump Connect 2 アプリ

Thump GOは、Thump Connect2アプリと連動して使用するよう設計されています。このアプリがあれば、ここで紹介するスピーカー本体のさまざまな機能をお手持ちのスマートフォンからBluetooth経由で操作できます。Thump Connect2アプリの詳細については、Thump Connect2アプリのリファレンスガイドをご参照ください。Thump Connect2アプリマニュアル（英語）はMackieホームページよりダウンロードしてください。

保護回路

Thump GOは、ピークレベルにおいて歪みを少なくするためのリミッターを内蔵しています。ダイナミックな低域レスポンス回路は、最適な低周波レスポンスを実現します。また自動サーマルシャットダウン機能も内蔵しており、アンプのオーバーヒートを防ぎますが、クラスDのアンプ技術により非常に熱効率がよいため、機能することは稀でしょう。



保護回路はスピーカーを保護するよう設計されています。もし警告サインを無視し、アンプがクリップし始めるポイントを過ぎてオーバードライブを続けると、ウーファーにダメージを与えることとなります。このようなダメージは保証対象外となります。

リミッター

ポリマー製コンプレッションドライバーは、高域のレスポンスが非常に滑らかで、スタジオモニターレベルの正確さと明瞭さを実現します。さらにこのドライバーは、非常にスムーズな過渡応答特性を持ちます。

ドライバーは一時的なピークによるダメージを防ぐため、独自のコンプレッション回路を搭載しています。コンプレッサーがどう働いているのか、実際にユーザーが認識するのは難しいでしょう。

オーバーエクスカージョン保護

パワーアンプ前段のサブソニックフィルターにより、超低域信号をカットすることができます。極端な低周波エネルギーはウーファーにダメージを与える可能性があります（オーバーエクスカージョン）。

熱保護

全てのアンプは熱を生み出します。Thump GOは電氣的・熱処理的の双方にとって能率が良いよう設計されています。もしアンプがオーバーヒートしてしまった場合、内蔵されているサーマルスイッチが有効になり、信号をミュートします。アンプが安全な操作ができる程度の温度まで下がったら、通常のアンプのオペレーションに戻ります。もしサーマルスイッチが有効になった場合、ミキシングコンソールのレベルを下げ、アンプのオーバーヒートを避けるようにしてください。直射日光や熱を帯びるステージ照明などは、オーバーヒートの原因となる場合があります。

AC 電源

Thump GOを接続するコンセントが、適した電圧を提供することを確認してください。電圧が不十分だとフルパワーを発揮することはできません。また、接続された全ての機器に対して必要な電力を確保できているか確認してください。アンプは高い電力を要求するので、堅実で強力なAC電源を準備することをお勧めします。供給される電力が多い程スピーカーの音量は大きくなり、ピーク出力が増大してクリーンかつ迫力のあるベースサウンドを得ることができます。ベースサウンドが迫りに欠ける場合、アンプに供給される電力不足が原因の可能性がありま



電源コードのグラウンドピンやスピーカーの部品は絶対に取り除いたり取り外したりしないでください。大変危険です。

お手入れとメンテナンス

ガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

このスピーカーを霧にさらさないでください。キャビネットの開口部から霧を内部に侵入させないように注意してください。特にドライバーが入っている部分には注意してください。屋外へ設置する際は、雨を避けるようにしてください。

極端に温度が低い場所（氷点下）に置かないでください。もし、気温が低い場所で使用しなければならない場合は、高出力で動作させる前に15分ほど低いレベル信号を送って、ボイスコイルを温めてください。

キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布をお使いください。また、使用後は電源を確実に切ってください。

設置について



WARNING: 設置は必ず経験豊かな技術者が行うようにしてください。不適切な機器の設置は、機器の破損や人体に被害を与えたり、最悪の場合、人命に関わる事故の原因となる場合もあります。スピーカーは必ず安全の確認が取れている場所に設置してください。

PA用メインスピーカーやモニター用途として、フロアやステージ上に設置できるよう設計されています。またキャビネットの底面のソケットを使用してポールマウントも可能です。スタンドがスピーカーの重さに耐えられるかどうか必ず確認を行ってください。MACKIEのT100はスピーカースタンドとして最適な選択で、MACKIEのSPM200はサブウーファー併用時におすすめです。

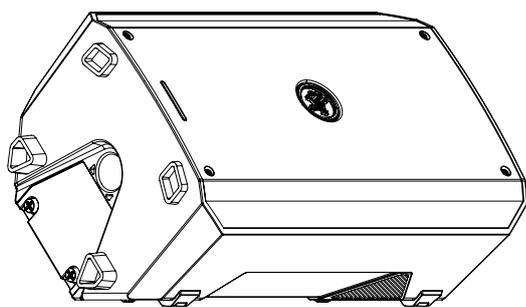


スピーカーのハンドルを利用して吊り下げことは絶対にしないでください。

スピーカーを設置する表面(床など)に関して、スピーカーの重さに構造的に耐えることができるか確認を行ってください。

スピーカーをポールマウントする際は、落下したり倒れたりすることがないか十分に確認を行ってください。これらの手順を守らないと、機器の破損や人体に被害を与えたり、最悪の場合人命に関わる事故に至る場合もあります。

水平方向に床置きすることで、45°の傾斜があるステージモニターとして使用することもできます。これはスピーカーがV字型となっており、ステージのような硬い床において使用する際に最適です。



モニターとして使用する場合、Running Man ロゴは回転させて使用してください。

設置場所には湿気を防ぐようにしてください。悪天候時にスピーカーを設置しないでください。屋外へ設置する際は、雨を避けるようにしてください。

ルーム・アコースティック

部屋の響きというのはシステム内のサウンドを決定付ける上で重要な役割を果たします。一方で広い範囲に高域の音を届けることができるThump GOは、部屋の響きによる問題を最小限まで抑えます。

以下はよくある部屋の響きの問題を解決するための設置テクニックです。ご参照ください。

- ・スピーカーを部屋の隅に設置した場合、低域が増幅され、サウンドがぼんやりし、はっきりしません。
- ・スピーカーを壁際に設置すると、低域が増幅しますが、隅に設置した場合ほどではありません。使いようによっては低域を増幅させる一つの良い方法となります。
- ・スピーカーをへこみのあるステージフロアに直接置くことは避けてください。へこみのあるステージは一定の周波数帯に共鳴し、帯域のある部分に急激なピークを作ったり、または急激な降下部分を作ったりします。スピーカーの重さに耐えられるような頑丈なスピーカースタンドのご利用をお勧めします。
- ・高域ドライバーがオーディエンスの耳の高さから 60～120cm 程高くなるようにスピーカーを設置してください(ダンスをしたり、立って聞いているオーディエンスにも音が届く余裕を作ってください)。高域は指向性が非常に限られていて、また低域に比べると非常に吸収されやすい特徴を持っています。高域はラウドスピーカーから直線的にオーディエンスの耳に届くため、サウンドシステム内の全体的なきらびやかさや明瞭さを担う役割を持っています。
- ・ジムやオーデトリウムなどといった反響しやすい部屋では、サウンドの明瞭さを保つのは容易ではありません。壁や天井、フロアなどによる複数の反射により、サウンドは制御しようがない状態になってしまいます。シチュエーションにもよりますが、反響を最小限に抑えることもできます。例えば、フロアにカーペットを敷いたり、カーテンで大きなガラス製の窓を覆ったり、壁にタペストリーを掛けたりするのが効果的です。

しかしながら、多くのケースではこういった方法を実践することができなかつたり、有効でない場合もあります。単純にシステムの音量を上げるだけでは、反響もそれだけ増すため効果的ではありません。スピーカーから離れば離れる程、反響するサウンドも目立つようになります。最も効果的なアプローチは、オーディエンスに可能な限り直接サウンドを届けます。

スピーカーの数を増やし、後方のオーディエンスにもスピーカーができる限り近くなるように設置を行います。前方のスピーカーと後方のスピーカーの距離が約30m以上離れている場合、外部のディレイプロセッサーを使用して、タイム・アライメントをとってください。(音は約340m/秒進むため、30メートル進むのに約1/10秒かかることとなります。)

サービスについて

問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止し、販売店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- ・電源コードの接続を確認、電源ケーブルがソケットの奥までしっかりと挿し込まれていますか確認してください。コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認してください。電源スイッチがオンであることを確認してください。
- ・フロントパネルの電源 LEDが点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認してください。点灯している場合は、下記の「音が出ない」をご覧ください。
- ・内部のAC ラインヒューズが切れている可能性があります。これはユーザーご自身で対応できる症状ではありません。AC ラインヒューズに問題があることが疑われる場合は、販売店に問い合わせてください。

音が出ない

- ・入力レベルを確認してください。システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。ミキサーのレベルメーターを見て信号が入力されているかを確認してください。
- ・ケーブルに問題がないこと、しっかり接続されていることを確認してください。ミキサーなどの出力レベルコントロールが、このスピーカーの入力をドライブするのに十分なだけ上がっていることを確認してください。
- ・ミキサーのミュートがオンになっていないか、またプロセッサのループが有効になっていないか確認してください。
- ・スピーカーが保護回路によりシャットダウンされている可能性があります。スピーカーの背後に少なくとも 15cmのスペースを空けるようにしてください。

音が良くない

- ・音量が大きくて歪んでいる場合、信号経路で過大入力となっている原因がないか、システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。
- ・コネクターが端子に最後までしっかりと挿し込まれ、全ての接続に問題がないことを確認してください。

ノイズが出る

- ・スピーカーに接続している全ての機器の出音に問題がないことを確認してください。
- ・信号ケーブルが電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するもの近づいていないか確認してください。
- ・スピーカーと同じ電源回路に、照明用のデimmerや SCRベースの機器を接続していませんかAC 電源フィルターを使うか、スピーカーを別のAC電源回路に接続してください。
- ・D級パワーアンプは熱効率を大幅に改善、コンパクトながらハイパワー出力を実現していますが、PWM(パルス幅変調)によってスイッチング素子を制御し、スピーカー駆動用の信号を生成しています。このことにより高調波ノイズが発生する傾向があります。無音時に聴こえる「サー」といったノイズは仕様の範囲内のノイズで、故障ではありません。音楽再生時にはこのノイズは気にならない程度になる設計になっています。

ハムノイズ

- ・入力端子に接続したケーブルを抜いてください。これでノイズが消えた場合は、スピーカーに問題があるのではなく、グラウンドループによるノイズが発生している可能性があります。以下のトラブルシューティングを試してみてください。
- ・ノイズを可能な限り除去するため、システム全体をバランス接続してください。
- ・可能であれば音響機器の電源を全て同一のグラウンドを共有するコンセントに接続してください。

Bluetooth / リンク

- ・ファクトリーリセットを試してください。
- ・Bluetooth接続前に、2台のThump Goのリンクを試してみてください。
- ・スマートフォンなどのデバイスとの接続は、1台のThump Goのみに接続してください。

技術情報

Thump GO 仕様

音響特性

| | |
|----------------|----------------|
| 周波数特性 (-10 dB) | 50 Hz - 20 kHz |
| 周波数特性 (-3 dB) | 57 Hz - 20 kHz |
| 水平放射角 | 90° |
| 垂直放射角 | 60° |
| 最大 SPL ピーク | 115 dB |
| モニター角度 | 45° |

トランスデューサー

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 低域ドライバー | 8 in / 203 mm フェライト |
| 高域ドライバー | 1.0 in / 25 mm ポリマー コンプレッションドライバー |

アンプ

| | |
|---------------|-----------|
| システム定格出力 | 200W Peak |
| パワーアンプ [低域] | |
| 定格出力 | 175W Peak |
| THD | <1% |
| 冷却 | 対流式 |
| 動作方式 | クラス D |
| パワーアンプ [高域] | |
| 定格出力 | 25W Peak |
| THD | <1% |
| 冷却 | 対流式 |
| 動作方式 | クラス D |

システムプロセッシング

| | |
|-------|------|
| ボイスング | 4 種類 |
|-------|------|

入力 / 出力

| | |
|------------------|--|
| 入力タイプ | XLR メス / TRS コンボ × 2 ステレオミニフォン Bluetooth |
| マイク - ラインインピーダンス | 20 k Ω バランス |
| XLR / TRS | 20 k Ω バランス |
| 出力タイプ | XLR オスバランス (THRU) |
| THRU 出カインピーダンス | 150 Ω バランス |

Bluetooth

| | |
|-----------------|---|
| Bluetooth プロトコル | 5.0 |
| Bluetooth 機能 | オーディオストリーミング / UI コントロール |
| 電波法 工事設計認証番号 |  R018-220145 |

電氣的クロスオーバー

| | |
|------------|--------------|
| クロスオーバータイプ | 24 dB/octave |
| クロスオーバー周波数 | 2.2 kHz |

電源

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 着脱可能電源コード | 100 - 240 VAC, 50 - 60 Hz, 75W |
| AC コネクター | 3-PIN IEC 250 VAC, 10A オス |
| 電源タイプ | スイッチモード |

保護機能

| | |
|------------|---|
| 入力保護 | リミッター (RMS, Peak) 電源, アンプ温度保護 |
| ディスプレイ LED | VOICING MODES, OUTDOOR MODE, MUSIC DUCKING, FEEDBACK ELIMINATOR, FRONT LED, PAIR, LINK, OVERLOAD, Battery |

バッテリー

| | |
|----------|----------------------------|
| バッテリータイプ | リチウムイオン |
| バッテリー寿命 | 最大 12 時間 |
| 充電時間 | 3 時間 (信号なし) 4 時間 (信号あり) |
| 容量 | 5200 mAh |
| 公称電圧 | 14.8 V |
| 通常動作温度 | 15 ~ 35°C |
| 充電時動作温度 | 0 ~ 45°C |

物理仕様

| | |
|--------|------------------|
| 基本デザイン | 左右非対称 |
| 材質 | ポリプロピレン |
| 仕上げ | 黒色成形 |
| グリル材質 | 耐候コーティングパンチングメタル |
| グリル仕上げ | 黒色パウダーコート |
| ハンドル | 1 個 |
| 動作温度 | 0 ~ 40°C |

寸法・重量

| | |
|-----|--------|
| 高さ | 457 mm |
| 横幅 | 230 mm |
| 奥行き | 285 mm |
| 重量 | 8.0 kg |

取付方法

フロアマウント、もしくはキャビネット底面のソケットを使ったポールマウントが可能です。(使用するポールの耐荷重を必ず確認してください)

リギングポイントはないため、ワイヤーを使用した設置は行わないでください。また、スピーカーのハンドルを利用した吊り下げは絶対に行わないでください。

オプション

Thrash212 GO Bag
Thrash212 GO Spare Battery
T100 Loudspeaker Tripod Stand
SPM200 Unthreaded Loudspeaker Pole Mount

製品の外観及び仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running man」は LOUD Audio 社の商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

Thump GO - ブロックダイアグラム

